

医療と介護の連携支援センター
2023年度実績報告

【2023年度実績】

①支援センター・市民等からの相談対応、医療職・介護専門職からの相談対応

相談対応件数：1846件

②セミナーの実施

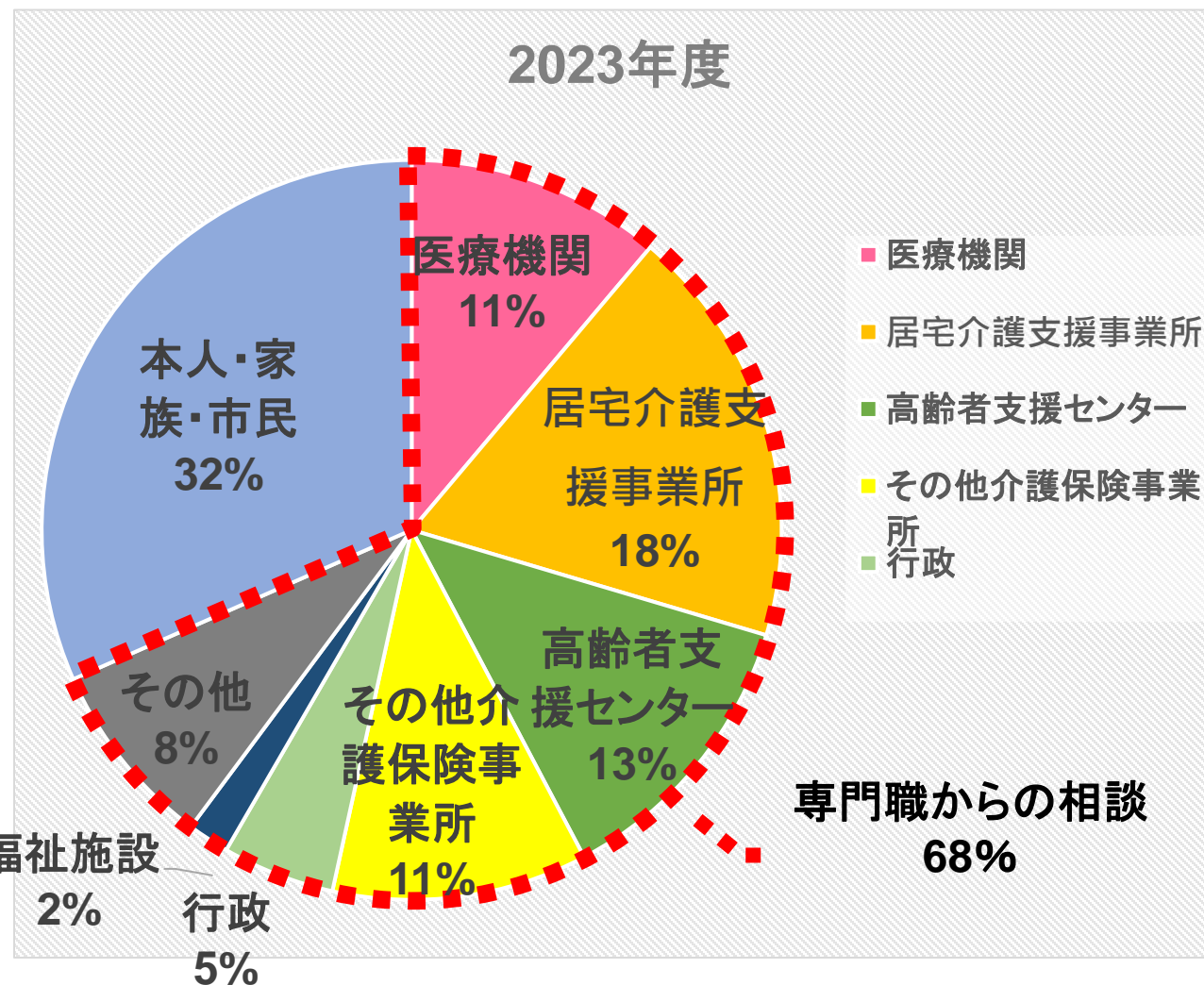
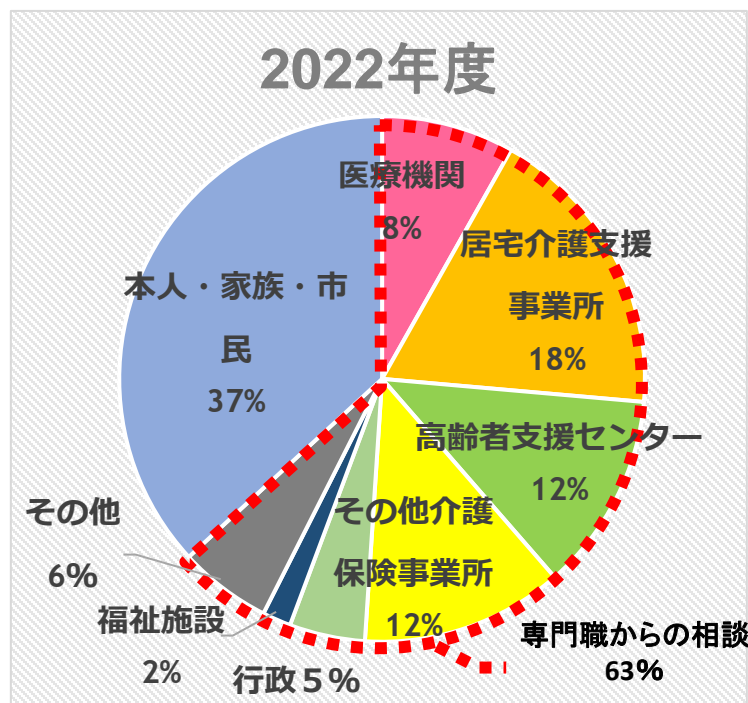
実施回数：2回

- ・小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護についてのセミナー
- ・認知症疾患医療センターを知るためのセミナー

③会議体等への参加

参加件数：287件

①相談対応：相談者の所属機関属性

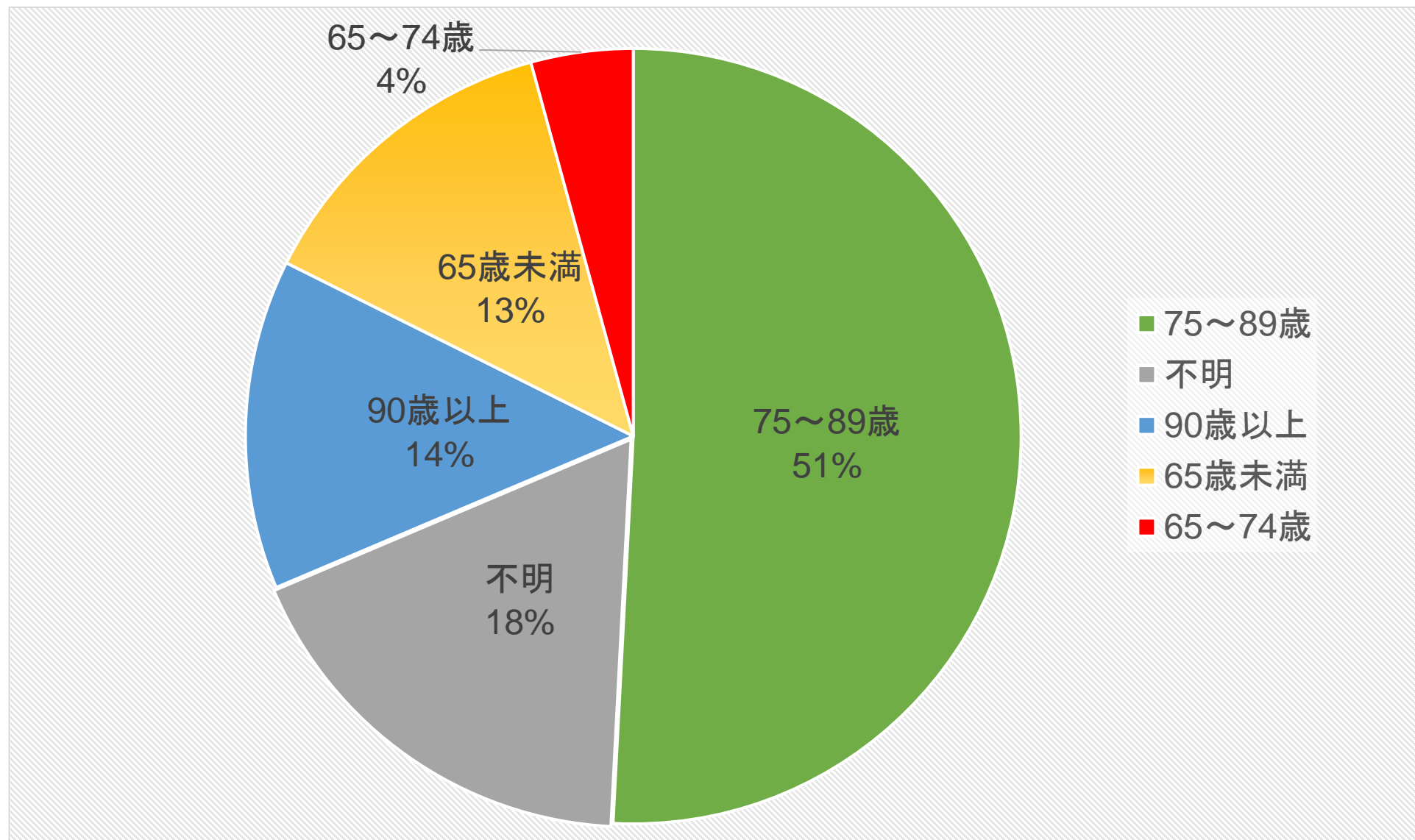


・医療機関 8% ⇒ 11%
 ・専門職からの相談 63% ⇒ 68%

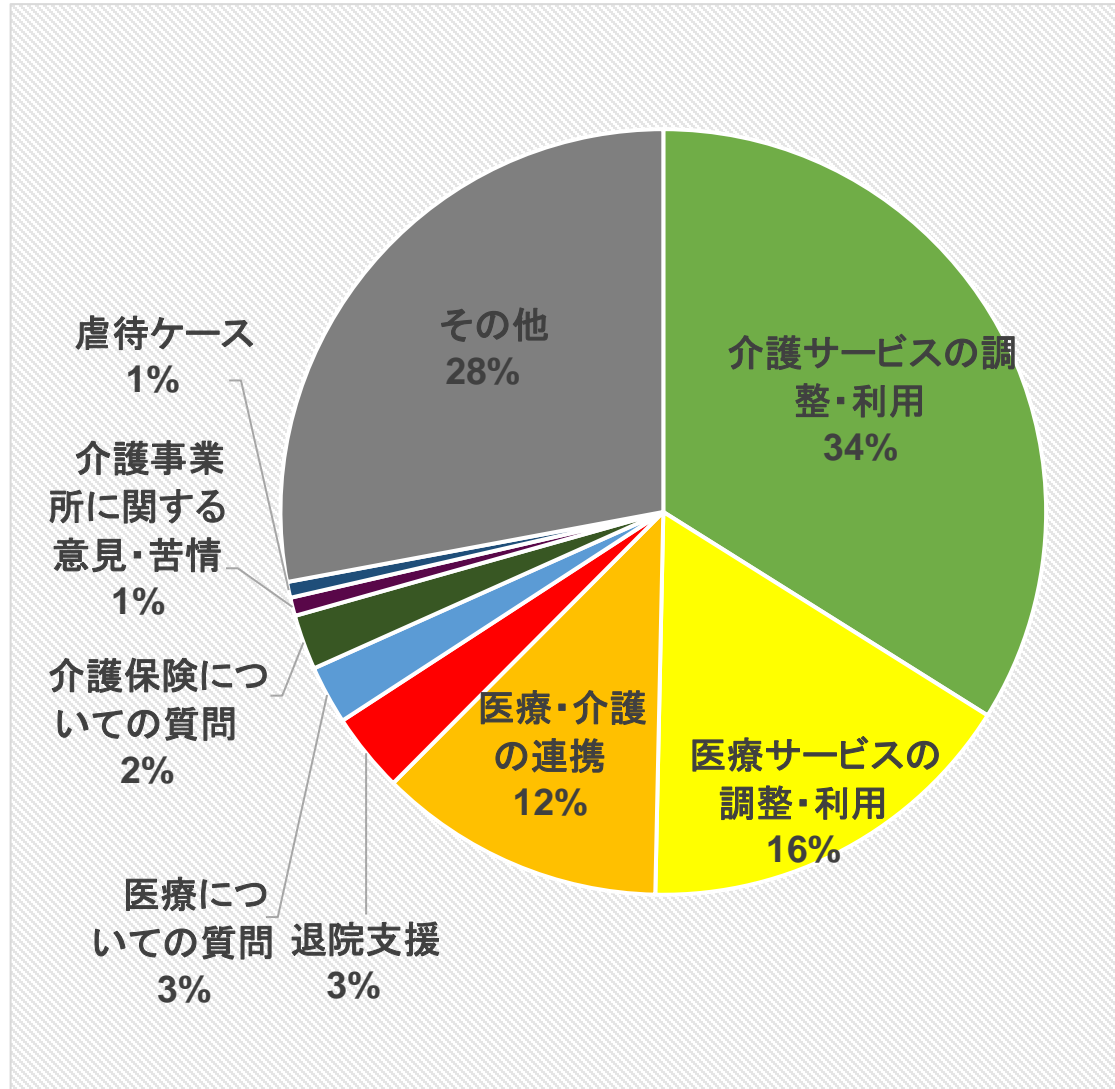


医療機関・専門職からの相談が増加

①相談対応：相談対象者の年齢区分



①相談対応：相談内容内訳



主な相談内容の傾向

◆ 介護サービスの調整・利用

- ・胃ろう対応してくれるデイサービスの相談(居宅)
- ・ALS等で喀痰吸引可能な訪問介護事業所の相談(障がい)
- ・精神疾患に対応可能な訪問介護事業所の相談(居宅)

◆ 医療サービスの調整・利用

- ・ST・土日対応・精神に強い訪問看護事業所の相談(居宅)
- ・医療依存度の高い人のショートステイ先の相談(居宅)
- ・専門診療が可能な訪問診療の情報に関する相談(居宅)
- ・透析の方のショートステイ先の相談(居宅)

◆ 医療・介護の連携

- ・緑内障の点眼管理の相談(診療所)
- ・在宅復帰の相談(病院)
- ・重度心身障害児の主介護者が末期癌となり在宅での看取り・家族との在宅時間の支援の相談(病院)

① 相談対応：相談事例等からみえる課題整理 1

◆ 介護サービスの調整・利用

(相談事例)

- ・難病の方で喀痰吸引のできる訪問介護事業所を知りたい。(居宅・障がい者支援センター)
- ・喀痰吸引が必要な方の利用できるデイサービスを探している。(居宅・保健所)

課題 喀痰吸引が可能な介護事業所の情報不足

(現状)

- ・喀痰吸引が必要な利用者に対して、訪問、通所ともに受け入れ先が少ない
- ・人員不足等の理由から新規受入れが可能な施設を探すことが難しい

➡ 喀痰吸引を必要とする利用者の受入が可能な
介護事業所の情報を把握・整理する

①相談対応：相談事例等からみえる課題整理 2

◆医療サービスの調整・利用

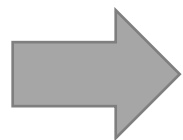
(相談事例)

- ・大学病院に通院中の患者。今後のことを考え、自宅近くの病院をすすめたい。
脳神経系の標榜科でリハビリのできる病院を知りたい。(病院)
- ・在宅酸素を利用中の方。家族に介護疲れが出ているため、レスパイト入院をしたい。(居宅)
- ・大学病院に通院中。医師より訪問診療に切り替えてはどうかと言われた。
血液専門医のいる訪問診療を知りたい。(居宅)

課題 専門職が必要な医療機関に関する情報にたどりつけていない

(現状)

- ・ケースごとに思い当たる医療機関に問い合わせるしか、情報を得る手段がない
- ・個々のニーズに対応できるほど医療機関の詳細な情報をとりまとめた資料がない
- ・同様に、訪問歯科や訪問薬局の情報を求める問い合わせがある



専門職が町田市を中心とした医療機関の情報にたどりつけるよう、
地域ケア推進会議等において、仕組みを検討する

①相談対応：相談事例等からみえる課題整理 3

◆医療サービスの調整・利用

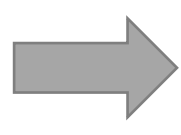
(相談事例)

- ・透析治療を受けている方の入所施設を探している。(病院)
- ・透析を受けている方の一時的な入所先を知りたい。(居宅)
- ・透析治療を途中で拒否し看取りで入院したが、在宅を希望し透析病院を探している。(支援センター)

課題 透析治療を必要とする利用者の受入が可能な施設の情報不足

(現状)

- ・受け入れ先が少ない
- ・施設側が透析の方の送迎等含め対応に苦慮している

 透析治療を必要とする利用者の受入が可能な医療機関、介護施設の情報を把握・整理する

②セミナーの実施

課題 複合型サービスの認知不足

- 介護保険サービス種別にある複合型サービス(小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護)の利用状況や認知状況が医療側・介護側にもあまり高くない状況がある
- 在宅生活をしている方の病状の変化に合わせた医療と介護の密接な連携協働が必要

「複合型サービス」を知ってもらうためのセミナーの実施

目的: 当該サービスの「機能」や「役割」を知識として習得する機会を提供し、住み慣れた地域での在宅療養支援の実践に役立てる

参加者: 医療機関11名、介護関係機関38名

終了後アンケート結果から、100%の方が「今後の業務に役立つ」と回答

医療と介護の連携支援センター主催令和5年度多職種連携協働強化セミナー

住み慣れた地域や自宅で

最後まで暮らし続ける為に

町田市の地域密着型サービスについて学んでみませんか?
通い・訪問・宿泊を複合的に利用できるサービスです

小規模多機能型居宅介護
看護小規模多機能型居宅介護

日時: 10月19日(木曜) 14時~16時

場所: KISOコミュニティベース

方法: 参集型

内容: 機能・役割・事例を交えて
町田市内の小多機・看多機の紹介

講師: 小規模多機能連絡会
看護小規模多機能連絡会

申込締め切り: 10月6日(金)

在宅との違いは?
知って活用しよう。
小多機・看多機!

施設の方との質疑応答の時間も設けています
是非この機会に、ご参加ください!

申込方法: 下記のURLまたはQRコードいずれかでお申し込みください。

Googleフォーム
URL

Googleフォーム
QRコード

Googleフォーム
[https://forms.gle/
2AcJH1jmLv1YdQzP7](https://forms.gle/2AcJH1jmLv1YdQzP7)



※車でお越しの方は
有料駐車場をご利用ください。
問合わせ先
医療と介護の連携支援センター
☎042-794-6527



②セミナーの実施

課題 認知症疾患医療センターの 役割が専門職に充分知られていない

- ・認知症の早期発見・早期診断に関する知識の不足
(鑑別診断と初期対応)
- ・認知症疾患医療センターの認知症の専門医から直接話を聞くことができる機会はほとんどない

➡ 「認知症疾患医療センター」を知る セミナーの実施

目的: 市民の方が認知症になっても望む場所で生活が継続していけるように、専門職が「認知症疾患医療センター・認知症サポート医」について詳しく知り活用できるようにする

参加者: 31名

終了後アンケート結果から、100%の方が「参考になった」「今後、認知症疾患医療センターを活用したい」と回答

介護・福祉職のための
主任介護支援
専門員
更新研修要件
該当セミナー

認知症疾患医療センターを 知るセミナー

認知症になっても
望む場所で生活するために

日時 2/20 火 14:00～16:00

場所 KISOコミュニティベース
交流スペース (定員30名)

講師紹介
認知症疾患医療センター
鶴川サナトリウム病院
医師 岸 敏郎
日本認知症学会 専門医・指導医

googleフォームよりお申し込みください
申込締切 2月13日
お問い合わせ先
医療と介護の連携支援センター
042-794-6527
machida-renkeishiencenter@machidahospital.jp
https://forms.gle/XeurWnZ5fzjokb2e6

※車で越しの方はお近くの
有料駐車場をご利用ください。

主催: 医療と介護の連携支援センター
共催: 認知症疾患医療センター (鶴川サナトリウム病院)



③ 会議体等への参加

- ・ 町プロ協議会
- ・ 町プロ多職種連携研修本会および部会
- ・ 各圏域地域ケア会議本会および企画会
- ・ 町田市地域包括支援センター運営協議会
- ・ 町田市高齢者支援センター連絡会
- ・ 各地区民生児童委員協議会
- ・ 鶴ヶ丘ガーデンホスピタルデイケア勉強会（講師）
- ・ グランハート透析クリニック主催勉強会（講師）
- ・ 堺・鶴川圏域主任介護支援専門員協議会主催勉強会（講師）
- ・ 南多摩圏域在宅医療相談窓口合同連絡会
- ・ 鶴川圏域相談支援機関連携会議

など延べ287件に参加（昨年度248件）